

長良川上中流域における保全計画に基づく活動状況等の評価
(令和5年度第4回世界農業遺産等専門家会議)

1 評価

貴地域では、地域の農業遺産の保全活動が概ね適切に行われていることが確認できたため、今後も引き続き活動を維持されたい。

2 専門家会議による助言事項

更なる保全・活用に向け、以下の助言事項を参考として今後の保全活動に取り組むことが望ましい。

- (1) 長良川システムの本質である森・川・海が繋がった一連のストーリーを再認識したうえで、個々の活動がシステムの繋がりにどのように寄与するかを整理し、システムの保全を意識して取組を推進することを期待する。また、取組の評価を行う際は、大学等の研究機関と連携し、科学的にデータを取った上で効果の検証を行うことが望ましい。
- (2) 鮎の資源量減少や外来種等の課題への対応については、気候変動適応計画や生物多様性戦略における地域戦略に関する議論も踏まえつつ、次期保全計画を策定いただきたい。
- (3) 観光に関する取組は高く評価できる。漁業資源としての鮎の振興と並行して、鵜飼等の文化的な側面での振興にも取り組んでいくことが重要である。
- (4) システムの保全について、行政主導から多様な主体の参画を図る取組へ深化させるためには、協議会等の組織体制への参画や、ワーキンググループの設立等、企画段階から民間が参画していくことが望ましい。

(以上)